

- ④ 主人公のしたこと（行動）を読みとる力をみる。
- ⑤ 会話から気持ちを読みとる力をみる。
- ⑥ 行動から気持ちを読みとる力をみる。

(2) 調査の結果と分析

① 漢字の読み

(児童番号)

	村	白	休	通	草	読	買	妹	雪	教	食	黄色	秋	顔	早	紙	青	寺	毎日	楽
誤答	0	2	0	3	0	1	6	11	5	9	2	8	3	6	1	4	5	6	18	9
1	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	×	×
3	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
5	○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
6	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×
7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

<以下省略>

上の表にあるように、村から楽まで、20出題してよみがなをつけさせた。「みかんの木の寺」に提出されている漢字だけである。「寺」「毎日」は、新出である。

- ・ 2年生 50名を対象として調査
- ・ 全児童正答の漢字
村、休む、草
- ・ 誤答の主なるもの
 - 妹(11名)
「妹と あそぶ」という出題のためか、「と」をおくらず、「いもう」としたものが9名あった。「いも」としたものの2名。
 - 教える(9名)
「べんきょうを 教える」と出題した。「かんがえる」としたものが、6名あった。「する」1名。送りがなにひかれての誤りであろう。無答2名。
 - 黄色い(8名)
「黄色い みかん」
「きいろい」と、「い」をおくったもの5名。「き」1名、「きろ」2名。送りがなに対する意識が、はっきりしていない。
 - 楽しい(9名)

「楽しく あそぶ」
「ただしい」としたものの2名。「きびしい」としたものの2名。「みんな」としたものの2名。「みんな 楽しく」などという使い方を心にとめていたのであろうか。他は無答。

- 毎日
「毎日 テレビを みる」
新出という理由からか、18名が正しく読めなかった。日常使用されているには意外で

ある。同じ新出でも「寺」は、6名のみの誤りであった。

「えぬえちけ」とかなをつけたもの5名。いろいろ考えた末のことであろうか。「あさひ」2名。「うみにち」3名。「るにち」1名。「ははひ」3名。他は無答。

以上のことから、次のことが言えよう。

- ア 送りがなからの推測
- イ 字形が似ていることによるもの
- ウ 文中の他のことばに強く引かれたと思われるもの
- エ 文の意味からの誤った推測によるもの

新しい教材にはいる前に、漢字のテストを実施し、クラスの児童の実態を表にまとめておく。指導後テストして、更に追指導というふうにしたいためである。

またこうすることによって、漢字の指導にどれほど力を入れればよいかも、はっきりしてくる。この教材の場合は、買う、妹、教える、黄色い、顔、寺、毎日、楽しいなどに、読みがなをつけ、カードに書き掲示しておくぐらいで、内容の読み深めを主にすればよいと思われる。